

【海外連結子会社に関する損失計上の再発防止策】

当社は、2014年初に買収した連結子会社であるインドのAccel Frontline Limited (AFL) の不適切な会計処理等を原因として、2015年12月期決算において関連会社事業損失7.36億円、のれん減損損失6.53億円を計上した。さらに、2016年12月期の第1四半期・第2四半期においても、それぞれ約3億円の損失を計上した。

このような損失による企業価値の毀損を防ぎ、今後のより適切な買収プロセス、統合プロセス、海外子会社管理を実施するため、以下の再発防止策を実行する。

(1) 企業買収プロセスの強化

AFL 買収検討時に実施したデューデリジェンスにおいては、海外企業、特に新興国企業を適切に評価するには不十分であった可能性があると認識している。

これを踏まえ、今後は国ごとに異なる法制度や税制、会計基準の相違などを十分に考慮したデューデリジェンスを実施するべく、ガイドラインおよび精査項目リストを作成し、これらに則ったデューデリジェンスを実施する。また、デューデリジェンス委託先の選定ポリシーを作成し、適切な委託先を起用する。

(2) 企業買収後の統合プロセスの整備

AFL が上場会社であることから、買収後も AFL による自律的な経営・運営に任せると、内部管理体制に過度の信頼を置いていたと認識している。

今後は、買収後には速やかに事業や本社部門の実態を掌握する体制を整備し、状況によっては、買収後に改めて財務・法務などのデューデリジェンスを実施する。また、買収企業の会計監査人等の選定に関するポリシーを策定する。

(3) 海外子会社管理の強化

海外子会社管理を担当する専任組織の設置や、外部専門家の利用などを検討し、海外子会社管理機能を強化する。また、定期的に海外子会社の財務・法務などの実査を行うことで会計の適切性やコンプライアンス状況を確認するとともに、牽制機能を強化する。

また、海外子会社が最低限遵守すべき会計処理上の手続き（ミニマムルール）の策定・適用を検討し、不適切会計の防止につなげる。

海外子会社へ派遣する役員や管理担当者、海外子会社の役員や管理職などに対しては、当社グループ会社として遵守すべき事項を明確にするとともに、不適切会計防止などのリスク管理やコンプライアンス、ガバナンスに関する教育・研修を充実する。また、海外子会社を含めた内部通報制度を整備し、周知・活用を図る。

以上